



Soba Choko Art

Soba Choko Art 第4回 そば猪口アート公募展

総評

4回目の公募展となる今回は世界各国から、295点の応募があった。毎年毎年増えてくるのは実に有り難いことであるが、スペースの関係でどうしても飾れない作品が有ることは申し訳ないことである。

審査員一同は先ず作品の前に立ち、一点一点が醸し出す作品のエネルギーを感じることから始める訳であるが、今年は特に作品のレベルが高く、総てを展示して見たい誘惑に駆られたのが事実である。

何事も重ねて絞り込んで行くのだが、なかなか前に進まない。作品の持つ力が審査員一同を悩ますのである。昨年の入選より多い数を展示することとしたことは、皆様の作品の力であると感じている。残念ながら展示外となった作品のほとんどは、他のどの展覧会においてもきちんと評価を受ける作品であり、入選となった作品との優劣は誠に僅差であったことを記しておく。

受賞作品の選考には、長い時間を費やし、最後の決定をする場面では、お互いにその作品の良い所を話し合うことに努めた。この展覧会は総ての情報を明らかにすること無く、番号のみでの鑑査、審査であり、それは最後の受賞の場面においても貫くこととした。総ての受賞が決まった時に、年齢、男女別、国籍等が明らかにされた中で判明したことは、受賞者には、20代から30代の若手が多かったことである。又海外からの作品も入選、受賞をしたことはこの展覧会の国際的な発展を考えて行くと実に嬉しいことである。(三田村有純)

大賞 田中若葉 「ゆらり」

乾漆造形にて作られた揺らぎの形に漆が塗られて、丹念に磨かれることによって、周りの風景を映し込む。その一部分には伏せ彩色をした二色の小さな薄貝を貼り、光り輝く。

内側は艶のない塗り立てで仕上げることで、外空間の光の世界と内空間の闇の世界を作り出し、完結した世界感を表出する。

底の部分も僅かな段差を丁寧に作り、作者が器としてだけではなく、一体の造形作品として作り出そうとしていることがうかがえる。今回の出品作の中では群を抜く感性を持つ作品として審査員一同から高評価を得た作品である。(三田村有純)

大賞

8.0×8.0×7.2 cm



ゆらり

田中若葉 1990年／石川県

〈漆・麻布・和紙・白蝶貝／乾漆・螺鈿〉

豊かな水の流れに映る風景がゆらめく様子を表現しました。

準大賞



(右) 直径8.5×7.0 cm
(左) 直径8.5×6.3 cm

陶稜花

西野 希 1990 年／岐阜県

〈磁／ロクロ・鎚〉

安曇野の山々に高く広がる空。透き通る風の中で「凜と咲く」蕎麦の花を意識して制作しました。

優秀賞



8.0×8.0×8.0 cm

夜 海

陳 明宗 1980 年／台湾

〈漆・柚木・銀箔／変塗・梨地〉

朧月夜
風が海を吹き渡るイメージ

準大賞 西野希 「陶稜花」

六稜花型のそばちよこのセットで、一つが口が広がる形、もう一つは窄まる形に作られている。白磁に薄く釉が施され、マットな感じに仕上げられている。ロクロで成形し、立ち涌文風を呈するように全面に鎚を入れている。安曇野に咲くそばの花を意識して作ったという。そばの花は五弁だが、そう言われてみるとそのイメージがフツと湧いてくるような独特の情感を湛えた作品である。マツで控え目な光沢もその感覚を後押ししている。(金子賢治)

優秀賞 陳明宗 「夜海」

おぼろ月の僅かな光で煌めく海の色を漆々の様々な技法で表現する。木をロクロ造形し、その後外側を六角形と三角形に面取りをしていく。底面が六角形と三角形になり、僅かに割られて、安定感ある造形となっている。内側には金が蒔かれ、何層にも透明な漆が塗られ、深い底の部分のみ、僅かに金の光を見ることが出来る。外側は変り塗の技法に金箔を用いた金虫食い塗を使い、ゆらめく光を表現している。底面には一面に、そして切り取られていない側面には選ばれた青色の微塵貝が蒔かれ、上塗り後、研ぎ出されてされている。デザイン、造形が一致した作品として秀作である。(三田村有純)

優秀賞 美濃容子 「夏時雨」

色ガラスのチップを巻き、底肉を厚くして吹いた器に、後加工で細い線を彫りこんでいる。紫の器はやや幅広く、緑の方は斜めの線がきめ細かく、断続的に入っていて激しい雷雨なのだろうか。作家の感性が光る、しゃれた品格のある作品だと思う。(藤田潤)

特別賞 竹森公男 「汀」

外側を黒く、内側を赤く切り替えた効果が見る者に強く訴える。内側には細かな貝と銀粉が蒔かれて、上塗り後研ぎ出されている。外側は青色の漆で水のうつろいを描き、その上に銀粉を蒔いて上塗り後研ぎ出しをしている。また四方向に細く長い貝を縦に貼り、合間には小さな四角形と三角形が赤色で象徴的に描かれている。湖等の水辺に新月が映り込み、僅かなさざ波が起す中の光る世界を哲学的に表現する。作者の静かな情念の世界を展開した優作である。(三田村有純)

特別賞 根本峻吾 「霜鱗刻猪口」

磁器土をロクロで成形し、アウトラインがスマートでバランス良く美しい形をした猪口である。口を梅花型をアレンジしたような三稜花型に切り取って

るが、その口縁の線も大変美しい。そばの匂に合わせて外側に霜を表現したと言う。新そばの頃の季節感を霜で象徴する発想が秀逸であり、それを吹き付けで控えめに表した表現力もなかなかしたたかである。風格のある堂々たる作品である。(金子賢治)

審査員賞 ひが直美 「さくらの宴」

タタラを横に巻いて作る、瀬戸美濃地方で盛衰した湯呑づくり技法の応用である。そのあたりを熟知した作り手ならではの手慣れた技法で、幾何学的にしっかりと形を作り出している。そのきっぱりとした形づくりの意志が見事に現代的なフォルムのカップを作り出したのである。白と黒の組み合わせも洒落ている。絵付けもそれに合わせ、いわゆる骨描きと掻き落としを対照させている。(金子賢治)

審査員賞 橋本通 「Cup-椎・Cup-ドロップ」

底の部分を木胎で作し、周りを乾漆技法で作った造形は軽く丈夫である。また側面と底に和紙を貼り、漆を塗り重ねる事によって、持ちやすい肌を創る。一つは大小二枚の椎の木の葉を貼り、全面に金箔を貼り込み、透明漆を塗り込んで研ぎ出す。もう一つは伏せ彩色した雫の大小さまざまな貝を貼り、繊維の強く主張する和紙を貼り込み、透明漆を塗り込んで研ぎ出している。二点ともあえて磨くことはせず、今後使い手が使い下の光がでること、磨かれた作品にはない静かな存在感を醸し出す。(三田村有純)

審査員賞 石田慎 「水神」

外被せされた群青色を縦に大胆にカットし、中央には細かな切子模様が大一周している。作者は確かな吹吹きと切子の技術を備えていることがうかがえる。水の流れやきらめきの中に潜む神性が見えたのであろうか。(藤田潤)

審査員賞 羅琪 「染・色」

柔らかな台湾檜木と硬い黒柿木を材料に用い、高度な寄木技法で合わせ、ロクロ塑造で美しく仕上げている。形態はオースドクスではあるが、シンプルで小形の器でありながら、壮大な宇宙が広がって見える。作者の表現感情が直接伝わってくる、意図的で研ぎ澄まされた感覚が光る秀作である。(木下五郎)

優秀賞



7.0×7.0×8.5 cm

夏時雨

美濃容子 東京都

〈ガラス／吹きガラス・カット〉

時に激しく、時にやさしく降り続く雨のイメージを表現しました。

特別賞

直径8.5×7.0 cm



みぎわ
汀

竹森公男 1949年／長野県

〈漆／蒔絵・螺鈿〉

新月の映る汀（渚）の風情をイメージして作成

特別賞

直径9.0×7.3 cm



霜鱗刻猪口

根本峻吾 1986年／茨城県

〈磁／ロクロ〉

蕎麦の匂に合わせ、霜を器に表現しました。

審査員賞

8.0×8.0×8.0 cm



水 神

石田 慎 1986年／兵庫県

〈ガラス／切子〉

綺麗な水の美しさ

審査員賞

7.5×7.5×7.0 cm



Cup - 椎・Cup - ドロップ

橋本 遥 1984年／茨城県

〈漆・麻布・和紙・木・貝・椎の葉／乾漆〉

手に持ち、存在感を楽しめるよう表面の質感にこだわりました。



審査員賞

8.5 × 18.0 × 7.0 cm

さくらの宴

ひが直美 1968 年／愛知県

〈陶／タタラ・絵付け〉

絵付け技法（骨描きと掻き落とし）で桜の昼と夜の姿を表現しました。



審査員賞

7.5 × 7.5 × 6.5 cm

染・色

羅 琪 1988 年／東京都

〈漆・台湾檜・黒柿・蜜蝋／寄木細工・ロクロ〉

猪口の中にあるまろやかな醤油と檜の香をイメージして制作した。



(右) 8.6 × 8.6 × 6.2 cm
(左) 8.7 × 8.7 × 6.3 cm

練込そば猪口「層雲」

相澤正樹 1961 年／長野県

〈陶／ロクロ・板作り〉

冷たい水面から立ち上がる雲を表現



9.0 × 9.0 × 7.5 cm

白いそば猪口

相澤由依 神奈川県

〈磁／ロクロ〉

安曇野の涼しげなイメージを表現しました。



どんぐりコロコロ

朝倉 潔 1965 年／千葉県

〈陶／染付・黒呉須〉

そば猪口の中にどじょうとの出会いを待つどんぐりを描きました。



つちもよう

阿部有希 1983 年／愛知県

〈陶・漆／陶胎漆器・型起こし〉

土そのものの質感、意図せず生まれた土が描くラインを大切に制作しています。



天羽慎之介 1977 年／山形県

〈陶・漆／陶胎漆器〉

土の粒子に漆が絡み、日常的な器が空間の拡がりを見せる。



絵粉引窯変そば猪口

荒家敏伸 1955 年／岐阜県

〈陶／粉引窯変〉

永く使っていただける様にシンプルに。口造りは湯呑の口にして、そば猪口の他の用途にも使えるようにした。



「水と緑」の器

飯沼耕市 1962 年／茨城県

〈陶／ロクロ〉

水と緑の薫るまち安曇野をイメージして作成しました。



Candy

石井香織 1980 年／神奈川県

〈磁／ロクロ・上絵・金彩〉

使い勝手や掌の馴染み易さも考慮しつつポップで華やかな色使いに。(蕎麦にあまりなじみのない年代にも親んでもらえるように。)



安曇野の夜（夏、冬）

五十川命 1992 年／京都府

〈陶・漆／陶胎漆器〉

季節ごとの星空を包みこむ安曇野の山々を表現しました。



風 想

伊藤真一 1974 年／長野県

〈磁／ロクロ〉

穏やかな水と風の流れをのぞき窓から眺める世界観でカタチにしました。



9.0 × 9.0 × 7.5 cm

雨のち晴れ

今村祐華 1985 年／滋賀県

〈陶／象嵌・下絵付〉

梅雨の晴れ間に見た紫陽花の美しさに感動し制作しました。



7.5 × 7.5 × 5.8 cm

金彩因子柄夫婦猪口

ウエダキョアキ 1960 年／兵庫県

〈陶／盛り上げ・金彩〉

因子とは万物をつなげる、構成する素となる素粒子です。人との出会いやつながりを大切にしたいという思いで制作しました。



直径 9.5 × 6.7 cm

網目の猪口

内海大介 1983 年／兵庫県

〈陶／染付〉

伝統的な網目模様と、飛び鉋の技法を駆使して制作しました。



9.5 × 9.5 × 7.5 cm

青白磁蛍手そば猪口「灰光」

江口 功 1980 年／愛知県

〈磁／蛍手〉

灰かな光



練込そば猪口 ～黒～

大野陽子 1978 年／富山県

〈陶／練込〉

シンプルでありつつも配色やカタチを工夫し変化をつけました。



お。

岡本晋介 1966 年／兵庫県

〈陶／手びねり〉



陽 光

梶間智絵 京都府

〈磁／鑄込み〉

太陽の光は自然をキラキラと輝かせます。そのキラキラをそば猪口にも…



浮 遊

上島加奈子 1980 年／東京都

〈磁／ロクロ〉

軽やかで柔らかにふわりと浮かぶ気持ちで作りました。



お月見

木口泰広 1985 年／長野県

〈陶／ロクロ〉

秋の夕暮れをイメージして作成しました。



snow-water

木谷恵美 1984 年／岐阜県

〈陶／ロクロ〉

安曇野に流れ込む雪解け水、せせらぎをイメージし表現しました。



白萩ちぎり継手猪口

北園史朗 1952 年／神奈川県

〈陶／冷却還元焼成・手びねり〉

土のかたまり、石のかたまりをうつわにしてみました。



金彩色絵そば猪口

熊本栄司 1962 年／三重県

〈陶／上絵〉

華やかな器でそばを食べるのもすごく楽しいと思い制作しました。



(右) 7.5 × 7.5 × 7.5 cm
(左) 8.0 × 8.0 × 6.5 cm

親子ペア猪口

小林守男 1952 年／新潟県

〈陶／紐づくり〉

山々の森の色と雲



7.5 × 7.5 × 7.5 cm

ソバージュ蕎麦猪口

小林由依 1990 年／愛知県

〈陶／ロクロ・貼り付け〉

そばとソバージュ
うふと愉快的気持ちになってもらえたら嬉しいです。



10.0 × 10.0 × 7.0 cm

青白磁面取そば猪口

榮 一男 1947 年／埼玉県

〈磁／還元焼成〉

磁土の白い肌と釉薬の澄んだ青で、気持ちよくそばをいただけることを想い作成。



7.7 × 8.7 × 6.6 cm

せせらぎ

佐川秀雄 1943 年／千葉県

〈陶／ロクロ・象嵌〉

川面に映る色をイメージしました。



10.0 × 10.0 × 6.0 cm

透光磁練込

佐藤美佳 1970 年／神奈川県

〈磁／練込技法〉

派手なそば猪口を作ってみました。



(右) 8.0 × 8.0 × 5.5 cm

(左) 8.5 × 8.5 × 6.0 cm

露糸衣

澤谷由子 1989 年／石川県

〈磁／ロクロ・イッチン〉

朝露がはかなく消えてゆく様子を立体的に表現しました。



8.0 × 8.0 × 6.3 cm

赤絵茸蜘蛛の巣

澤村花菜 1990 年／佐賀県

〈磁／赤絵〉

可愛く毒気のある作品を目指しました。



9.0 × 9.0 × 7.0 cm

染め上げ蛸手そば猪口

篠田明子 1962 年／長野県

〈磁／蛸手・上絵〉

水流の地中から湧き出す水。ゆれる泡。きらめく光。



直径 8.4 × 8.4 cm

ハートつなぎ猪口

篠田弘明 長野県

〈陶／彩瓷〉

そば猪口って、オン・ザ・ロックにも最適だね。



直径 10.0 × 5.5 cm

透光磁練上そば猪口「梅花藻」

杉山久子 1950 年／静岡県

〈磁／練上〉

海花藻の花のイメージをそば猪口にしてみました。



直径 9.5 × 7.5 cm

無 題

須郷 聡 1958 年／埼玉県

〈陶／化粧土描画〉

そばを想いながら、手が動くまま造ってみました。自分の好みで少し大ぶりです。



6.0 × 8.0 × 6.0 cm

アヤメ

関 薫 1959 年／長野県

〈陶／ロクロ〉

アヤメの美しさにひかれ



9.0 × 9.0 × 8.5 cm

ストライプ

武内雅之 1946 年／茨城県

〈陶／ロクロ・上絵〉

そば麵のイメージ



6.7 × 6.7 × 7.0 cm

染付猪口

田中良和 1983 年／愛知県

〈磁／染付〉

古くからあるそば猪口を現代的に表現した。



8.5 × 8.5 × 8.2 cm

ミナモノモアレ

谷川アサ佳 1985 年／岐阜県

〈磁／射込み・透かし彫り〉

安曇野の水のある風景、水面に映る光の帯をイメージし焼き物で表現しました。



8.5 × 10.0 × 7.0 cm

山裾でのんきに歌う羊

坪倉乃布 1959 年／東京都

〈陶／ロクロ〉

そば湯を飲んだ後、羊の脚を持って振ってみてください。



8.2 × 6.7 × 6.7 cm

白猪口

長井千春 1965 年／愛知県

〈磁／鋳込・かき落とし〉

白い磁土に白の加飾をほどこし、清涼感を表現した。



9.5 × 9.5 × 7.5 cm

波うさぎ染付そば猪口

中里愛海 1991 年／愛知県

〈陶／ロクロ〉

古典的な絵柄である波うさぎをモチーフに絵付けをしました。



7.0 × 8.0 × 6.0 cm

六角泥彩印花そば猪口

永田典子 1984 年／愛知県

〈磁／泥彩印花〉

印花技法を用いて泥彩を施しました。



7.5 × 7.5 × 7.0 cm

櫓廻し猪口

長山 六 1957 年／茨城県

〈陶／ロクロ・タルクマット釉〉

安曇野ミルキーウェイの下で、静かにそばを食べる。



7.8 × 7.8 × 6.5 cm

蛭文猪口

根本達志 1964 年／茨城県

〈陶／印花・彩泥〉

安曇野のわさび田にまう蛭を表現しました。



7.5 × 7.5 × 6.5 cm

金銀彩蛭手そば猪口

橋本大輔 1969 年／大阪府

〈磁／ロクロ〉

めでたい席どうぞ



8.8 × 8.8 × 7.8 cm

瑞 雨

長谷川和美 1949 年／愛知県

〈陶／ロクロ〉

そばの成長を願って作りました。(穀物の成長を助ける雨)



(右) 8.0 × 8.0 × 6.8 cm

(左) 8.0 × 8.0 × 7.5 cm

梨花紋様そば猪口

林 光春 1947 年／千葉県

〈磁／ロクロ〉

満開の花の下で、そばを食したい望みをイメージして作成しました。



9.5 × 9.5 × 6.5 cm

夏の稜線

比嘉のぶみち 1974 年／愛知県

〈陶／ロクロ〉

山間の夏の深緑を表現しました。



(右) 6.5 × 7.5 × 7.0 cm

(左) 6.8 × 6.8 × 7.0 cm

人見和樹

1991 年／岐阜県

〈磁・銀／鑄込み・色揚げ〉

表面に焼きつけた銀は、黒ずんだり、はげたり変化に富んでいます。その変化に着目して制作しました。



8.3 × 8.3 × 6.0 cm

清涼

平賀愛子 1973 年／神奈川県

〈磁／鑄込み〉

そばの持つ清涼感をイメージして作成しました。



(右) 8.0 × 8.0 × 8.0 cm

(左) 8.5 × 8.5 × 8.0 cm

夕焼けこやけ

藤岡光一 1976 年／兵庫県

〈磁／ロクロ〉

夕方から夜にうつり変わる燃えるような夕焼け空をそば猪口で表現しました。



水衣ノ器

藤田直樹 1990年／愛知県

〈磁／ロクロ・面取り〉

石のような磁土、水のような釉薬。



虹彩霧滴「紫翠」

古川 剛 1984年／京都府

〈陶／ロクロ・天目釉〉

自然界の美しさを天目釉で表現しました。



points and lines ～そばちょこ～

古谷萌仁香 1984年／茨城県

〈陶／タタラ・イッチン〉

自分でも使ってみたい可愛いそば猪口を作りました。



HOZO

前沢陽彦 1980年／富山県

〈陶／スリップウェア〉

流線模様の配置や張合わせの箇所、高台との境界に拘りました。



9.0 × 9.0 × 6.7 cm

清流

松島洋子 1969 年／兵庫県

〈陶／しのぎ〉

安曇野へ行った時を思い出して川の清流をイメージして作成しました。



11.0 × 11.0 × 9.0 cm

岩草

南槇太朗 1993 年／石川県

〈磁〉

形は岩を絵は葉っぱをイメージして作りました。



9.0 × 9.0 × 8.5 cm

縞紋の器

宮島正志 1953 年／東京都

〈陶／釉彩〉

上田に生まれた自分は「刀屋」のそばが忘れられない。少し大きめの器としました。



8.5 × 8.5 × 7.0 cm

赤絵猪口澄明

村松道浩 1968 年／長野県

〈磁／口クロ〉

澄んだ清流に育まれた蕎麦をイメージして作成しました。



Nerikomi Porcelain Sobachoko [Water Flow] [JPN]

室伏英治 1959 年／静岡県

〈磁／練込〉

〔右〕(JPN) 透光性の高い磁土を使ったやや大ぶりの蕎麦猪口です。手に持った時の触感と、器に透ける模様が蕎麦のおいしさをより一層引き立てるかと思います。

〔左〕(Water Flow) 透光性の高い磁土を使った蕎麦猪口です。手に持った時の薄く軽い触感と、器に透ける模様が蕎麦の繊細な味わいをより一層引き立てるかと思います。



colorful

森谷かほ理 1987 年／東京都

〈陶／ロクロ・下絵付〉

華やかな食卓になることをイメージしながら制作しました。



初夏から秋へ

森 幸子 1949 年／兵庫県

〈陶／手びねり〉

風と水と花をデザインしました。



たる猪口

芦田直子 1986 年／京都府

〈漆／乾漆・漆塗り〉

素朴な蕎麦に素朴な樽を組み合わせ、漆塗りで仕上げました。



常念山脈 冬・春

伊藤敦欣 1947年／長野県

〈漆／乾漆・彩色蛸色〉

そばを食べながら常念の山並をイメージして造りました。



おやさい象嵌猪口

太田正明 1987年／神奈川県

〈漆・樺・トマト・オクラ／象嵌〉

野菜中心の食生活にしたため、作品にも影響が及んだ様です。



潮の香

大橋 清 1954年／石川県

〈漆／脱乾漆・石地仕上げ〉

安曇野の山野にありて、海を想いながら、そばを食べてもらいたい。



the wrinkles

小野寺奈南 1986年／東京都

〈漆・綿布・木・金箔／乾漆〉

安曇野のそば畑に吹く風と、そばの力強さをイメージして制作しました。



直径 5.5 × 8.0 cm

実り

北濱幸作 1952 年／石川県

〈漆・蒔／蒔地・摺漆・蒔絵〉

器を伏せると見える時（刻、秋）と景色。心に触れる温もりで味を楽しんでもらいたいです。



8.0 × 8.0 × 6.5 cm

花の記憶

黒木紗世 1989 年／石川県

〈漆・栃・錫粉／拭漆・蒔絵〉

花の周りを取り巻いている情景を模様に入めました。



8.2 × 8.2 × 6.5 cm

和布刈

工房ぬり松 1967 年／福岡県

〈漆・樺・美濃紙・銀箔・錫粉／変塗〉

安曇神ゆかりの神社にて、松明の元、わかめを刈る元日神事を表現。



直径 10.0 × 6.0 cm

スイング

高橋貞一 1953 年／秋田県

〈漆／乾漆〉

不安定で大丈夫かな、の表情を想像して。



たゆと
蕩 う

谷口元美 1960年／京都府

〈漆・鮑貝・銀粉・銀箔・乾漆粉／乾漆青貝ぼかし塗〉

清らかな水の中でゆらゆらと揺らめく、山葵の花が日の光を受けて、煌めく様を表現してみました。



まど
円かに

中山 強 1960年／石川県

〈漆・档・麻布／堅地〉

本朱の経年変化で、そばの味わいも変わっていく。



安曇野叙景

西野孝章 1969年／長野県

〈漆・樺・布／呂色塗・素黒目上塗〉

安曇野の昼と夜の田園風景を表現してみました。



月の川

堀 正敏 1949年／新潟県

〈漆・竹・麻・銀粉・錫／錫象嵌研出〉

犀川の水面にうつる月光



8.5 × 7.5 × 7.5 cm

漆絵そば猪口「蝶々」

水尻清甫 1954 年／石川県

〈漆・桧・麻布・白塗／漆絵・塗本堅地〉

奥能登輪島そばの花に蝶が舞うイメージで図案化した、七宝蝶の図で制作表現しました。



7.8 × 7.8 × 7.0 cm

変塗そば猪口

森 秀達 1992 年／石川県

〈漆・麻布／乾漆〉

山の中の木漏れ日をイメージして作りました。



8.0 × 8.2 × 7.0 cm

乾漆溜塗猪口

横山美穂 1984 年／石川県

〈漆・麻布・和紙・檜／乾漆〉

安曇野を囲む山々をイメージして作成しました。



直径 7.0 × 8.7 cm

栃造拭漆猪口

浅賀貴宏 1983 年／福井県

〈漆・栃／拭漆〉

栃材を轆轤で挽いたものを素地にし拭漆技法で仕上げました。



(右) 7.1 × 7.1 × 9.7 cm
(左) 7.4 × 7.4 × 9.7 cm

二方隅切り35蕎麦猪口

小口富雄 1948 年／長野県

〈スプレース／7面圧着〉

茶褐色のそば畑、器を伏せて有明山をイメージして作成しました。(作品名 35 は、35 g の意味)



7.0 × 7.0 × 7.0 cm

ヤスリ削り模様そば猪口

國定 勇 1949 年／岐阜県

〈漆・櫨／拭漆〉

使いやすいそば猪口を重点に置き、表面はヤスリ削りで仕上げました。(持ちやすさ)



9.7 × 7.0 × 8.0 cm

笑々々

阿部貴央 1985 年／福島県

〈ガラス／吹きガラス〉

見た人がニヤッと笑うことを目指して制作しました。



8.8 × 8.8 × 6.0 cm

黒に黄緑

池田桃子 1977 年／愛知県

〈ガラス／吹きガラス〉

楽しい食事風景を想像しながら作りました。



9.0 × 9.0 × 7.5 cm

Fioritura

金井瑠子 1993 年／愛知県

〈ガラス／宙吹き〉

うつわに音楽が感じられるような作品づくりを心がけています。演奏時に装飾用語で使われ、イタリア語で「花咲く」という意味の言葉をイメージして、同じイタリアのガラス技法を使用しました。



7.5 × 7.5 × 10.0 cm

田毎^{たこと}の月

金 泰成 1967 年／長野県

〈ガラス／螺鈿・ガラス絵付けラミネート・研磨〉

月夜に白く浮かぶそば畑の花と、水面にうつる月を表現しました。



直径 7.0 × 7.5 cm

清 流

金 伯工 1978 年／神奈川県

〈ガラス／吹きガラス〉

蕎麦には欠かせない、清らかな水をイメージして作りました。



15.0 × 8.0 × 8.0 cm

キラメキ

小林結花 1965 年／東京都

〈ガラス／宙吹き〉

安曇野の水のきれいな流れをイメージしてデザインしました。



氷 器

小宮 崇 1985 年／東京都

〈ガラス／吹きガラス・研磨〉

氷から削り出した様なイメージで器を制作しました。



宇宙蕎麦猪口

Gori 1983 年／神奈川県

〈ガラス／吹きガラス〉

ちょっと贅沢な気分で召し上がれ。



霜

西郷匡史 1969 年／福島県

〈ガラス／吹きガラス〉

暑い日中に“涼”を求めて



ツキニヨル、ミナモ

白崎園己 1969 年／兵庫県

〈ガラス／吹きガラス〉

白鳥湖のゆるやかな流れに月の光がキラキラ輝く。そこで多くの白鳥が休んでいる様子を思い浮かべながら作りました。



夏の海・宇宙の波

Travis Frink 1976 年／徳島県

〈ガラス／吹きガラス〉

〔右〕（宇宙の波）そばつゆを入れると波が青色に変化します。
〔左〕（夏の海）真夏の海をイメージして作成しました。



涼

永井香織 1992 年／岐阜県

〈ガラス／宙吹き〉

夏の日差しと清らかなせせらぎを感じる、そんな作品へと仕上げました。



noir

永岡千佳 1984 年／愛知県

〈ガラス／宙吹き〉

シンプルな器でお蕎麦を食べて欲しいと思い作りました。



soba field

難波立子 1966 年／福島県

〈ガラス／吹きガラス・サンドブラスト〉

そば畑のイメージで涼しげな器をつくってみました。



ツユ

福本真希 1973年／大阪府

〈ガラス／吹きガラス〉

冷たいおそばと冷たいおつゆをイメージして作成しました。



パッチワークちょこ・清流

藤井哲信 1956年／徳島県

〈ガラス／宙吹き〉

〔右〕（パッチワークちょこ）レースガラスをパッチワークしました。
〔左〕（清流）澄んだ水が清らかに流れるようす。



清 流

星野 環 1959年／東京都

〈ガラス／宙吹き〉

宙吹き技法で安曇野の涼やかな清流をイメージして制作しました。



麻の葉文様に蛸手猪口

前出佳与 1976年／兵庫県

〈ガラス／コアガラス・蛸手〉

美しい自然と伝統の調和を麻の葉文様と蛸手技法で表現しています。



ブオノ

増田ひで子 1947 年／広島県

〈ガラス／吹きガラス〉

ソパ好きの私のためのソパチョコ



天の川

三留 舞 1986 年／神奈川県

〈ガラス／宙吹き〉

七夕の星空をイメージして作成しました。



泡と螺旋

山本弥生 1964 年／東京都

〈ガラス／サンドブラスト〉

美しい水底から湧きたつ泡と、流れる水滴の軌跡を表現しました。



ぎやまん蕎麦猪口ー蕾／Raiー

吉岡 星 1982 年／愛知県

〈ガラス／宙吹き・カット・研磨〉

遠い記憶の中にある澄み切った水、風、光。その大地に揺れる蕎麦の花。



DRAWING

吉積彩乃 1991年／富山県

〈ガラス／宙吹き〉

より感覚的にガラスに色や質をのせていきたいと考えています。



standard

和田浩平 1987年／愛知県

〈ガラス／宙吹き〉

安曇野の清流をイメージして透き通ったガラスで制作しました。



安曇野に咲く花

飯島幸子 1947年／長野県

〈銅／七宝焼〉

安曇野の美しい名水と水音、風の流れをそこに咲く花をイメージして作ってみました。



月光

藤森和孝 1963年／長野県

〈銅／鍛金・七宝〉

深く垂れこんだ雲間から差し込む一筋の月の光をイメージしました。

Soba Choko Art

安曇野市制施行10周年記念

第4回 そば猪口アート公募展

2015年 10月17日(土) ~ 11月15日(日)

〔開館時間〕9:00 ~ 17:00

〔休館日〕10月19日(月)、26日(月)、11月4日(水)、9日(月)

会場: 安曇野高橋節郎記念美術館

観覧料: 無料 (高橋節郎作品の展示室は有料)

主催: そば猪口アート展実行委員会、安曇野高橋節郎記念美術館

構成団体: 安曇野市、東京藝術大学、安曇野高橋節郎記念美術館友の会、
現代工芸美術家協会長野会、安曇野スタイルネットワーク

協力: 「新そばと食の感謝祭」実行委員会

審査会: 2015年8月3日(月)・4日(火)

審査員: 金子賢治、木下五郎、藤田潤、宮下克彦、三田村有純

募集期間: 2015年7月1日(水) ~ 20日(月)

応募点数: 295点 (応募者数246名)

巡回展: 瀬戸市新世紀工芸館

愛知県瀬戸市南仲之切町81-2

12月5日(土) ~ 2016年1月24日(日)

白鷹町文化交流センター「あゆむ」

山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331番地

2016年3月

入選者 (50音順)

相澤正樹	相澤由依	浅賀貴宏	朝倉 潔	芦田直子	阿部貴子
石井希樹	天羽慎之介	荒井敏伸	飯島幸敦	飯沼耕一	池田桃華
石井香織	石田 慎	五十川 命	伊藤敦明	沼藤真一	今村祐清
ウエダキヨアキ	内海大介	江口 功	太田正明	野陽子	大橋 清
岡本晋介	小口富雄	小野寺奈南	梶岡智絵	大金井瑠子	上島加奈子
木口泰広	木谷恵美	北園史朗	北濱幸作	金井 瑠	伯工依雄
國定 勇	熊本崇司	黒木 紗世	工房めり	小 林 守	小 林 秀
小林結花	小宮 崇	G o r i	西郷匡史	榮 一 男	佐川秀雄
小佐藤美佳	澤谷由子	澤村花菜	篠田明子	篠田弘明	小崎 園
杉山久子	須郷 聡	関 薫	高橋 貞一	武内雅之	竹森公男
Travis Frink	田中若葉	谷川アサ佳	谷口元美	陳 明宗	坪倉乃布
中山 強	永井香織	長井千春	永岡千佳	陳 明宗	永根典吾
根本達志	橋本大輔	橋本 遥	長谷川和美	林 光春	比 直美
比嘉のぶみち	人見和樹	平賀愛子	福本真希	藤井哲信	藤岡光一
藤田直樹	藤森和孝	古川 剛	古谷萌仁	星野 環	堀 正敬
前沢陽彦	前出佳与	増田ひで子	村松道造	水尻清治	三 留
南模太郎	美濃容子	宮島正志	村松道造	星 伏 英	森 幸子
森 秀達	森谷かほ理	山本 弥生	横山美穂	吉 積 彩	乃
羅 琪	和田浩平				



安曇野高橋節郎記念美術館

〒399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高408-1 電話 0263-81-3030 FAX 0263-82-0551

URL http://www.city.azumino.nagano.jp/setsuro_muse/

発行/ 2015年10月17日 制作/ 樫電算印刷 撮影/ 山田 毅

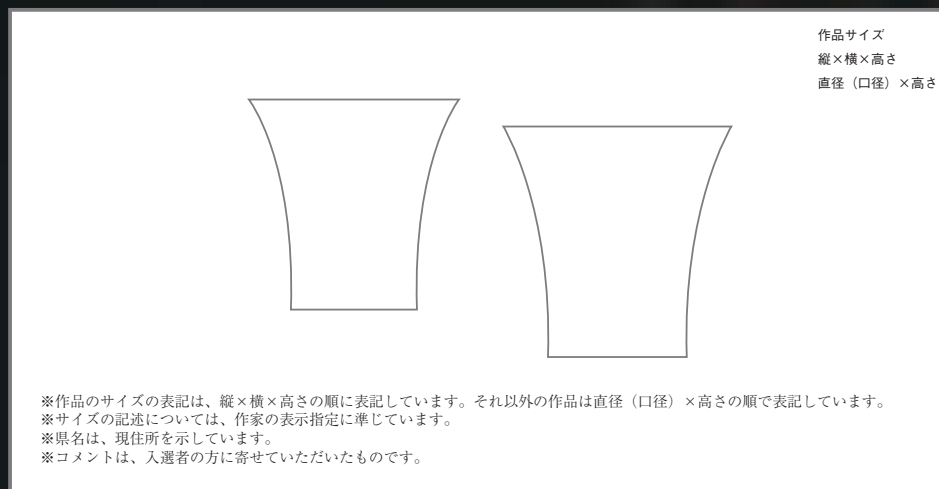
第4回 そば猪口アート公募展

「日本そば」は古来より日本人の食卓を彩り、今なお、私たちの日常的な食材として欠かすことができない存在です。日本全国に名物とされる「そば」は多々ありますが、信州安曇野の「そば」は全国的にも名高く、安曇野観光の目的として多くの人に親しまれています。

わが国では「そば」を食べるための容器は、多彩に発展しています。とりわけ「そば猪口」は、そばを食べるに欠かせない日常的な雑器でありながら、美しい細工が施され、味覚とともに視覚を楽しませるものになります。

このたびの公募展では、「そば」を食するに欠かせない仕器である「そば猪口」に着目し、広く一般から自作の作品を募集しました。246名、295点の応募作品の中から、厳選した116点の「そば猪口アート」をお楽しみください。

凡例



作品タイトル

氏名 生まれ年/現住所

〔材質/技法〕

入選者コメント